

グループワーク対策講座 講義編

第1章 グループワーク (GW)・グループ・ディスカッション (GD) とは？

近年、地方公務員試験の2次試験以降で GW・GD を導入する自治体が増加しているが、これらの試験は、面接と異なり、個人でできることに限りがあることから、対策に頭を抱える受験生も多いことと思われる。本講義では、公務員試験における GW・GD の全貌を明らかにするとともに、個人でできる対策についても講義する。そもそも、GW・GD とは、なにか。簡潔にまとめると、下記のとおりである。

GW：受験者が一つのテーマについて、数人（5～8人のところがほとんど）一組で、討論をしながらホワイトボードや模造紙に提案をまとめて発表する形式で、コミュニケーション能力はさることながら、発想のユニークさやチームの一員としての貢献度などを評価する試験。

GD：受験者が一つのテーマについて、数人（5～8人のところがほとんど）一組で、各自の見解を表明した後に、30～40 分程度討議をすることで、プレゼンテーション能力やコミュニケーション力などを評価する試験。

チーム作業の有無という違いはあるものの、**実は両者の違いはそれほど大きなものではない**。事実、これらの試験は地方公務員試験で多く採用されているが、両方とも導入しているところはなく、どちらかの試験もって、受験生の公務員としての適性を評価している。

コロナ禍では、感染症拡大防止の観点から GW・GD の中止を打ち出す自治体が多かったものの、現在では、ほとんどの自治体において GW・GD が復活していることから、今後も採用試験において GW・GD の導入を打ち出す自治体は増加していくものと思われる。ちなみに、試験における GW・GD の重要度については、各自治体の試験実施状況からある程度推測できる。下記は、令和4～6年度試験で GW・GD を実施した自治体のうち、東京都、大阪府、広島市、石川県の実施状況である。東京都、大阪府は3次試験で GW を、広島市は3次試験、そして石川県は2次試験でそれぞれ GD を実施している。

東京都 IB 行政（新方式）

（4年度）

採用予定者数	申込者数	受験者数	1次合格者数	2次受験者数	2次合格者数	3次受験者数	最終合格者数
105	697	521	352	311	206	189	139

（5年度）

採用予定者数	申込者数	受験者数	1次合格者数	2次受験者数	2次合格者数	3次受験者数	最終合格者数
174	560	433	366	315	259	253	230

（6年度）

採用予定者数	申込者数	受験者数	1次合格者数	2次受験者数	2次合格者数	3次受験者数	最終合格者数
210	732	489	449	400	324	318	296